



トレイルメンテナンスの最前線を牽引する
リーダーたちが集結!



基調講演

Sarah Adams

Appalachian Trail Conservancy(ATC)
南部地域マネージャー(ジョージア~ナンタハラ担当)
A.T. Community Coordinator として
2020年よりATCに関り、North Georgia
AT Community Networkの設立にも貢献。
大学時代には信越トレイルとATの繋がりについて調査を行い、卒業論文「Jappalachia」
を執筆。加藤則芳氏と深い親交を持つ。



基調講演 / パネリスト /
ワークショップ講師

Matt Drury

Appalachian Trail Conservancy(ATC)
サイエンス & スチュワードシップ 副部長
アパラチアトレイル沿線の植生管理や希
少植物とフェノロジー(生物季節)のモニ
タリングを行い、タスク遂行のためのボラ
ンティアを幅広く訓練・指導。土地管理や
復元生態学、林業等の多彩な分野において
全米政府機関、民間団体、非営利団体と関
わる環境学学士。



パネリスト/ワークショップアドバイザー

岡崎 哲三

一般社団法人大雪山・山守隊、
合同会社北海道山岳整備代表
大雪山国立公園で、総延長 300km に亘る
登山道の維持管理を民官学協働で行う。故
福留脩文に師事し、自然生態系の復元をコ
ンセプトとする「近自然工法」を登山道整
備に取り入れて実践、また全国各地でその
ノウハウを指導。



パネリスト

伊藤 圭

三俣山荘事務所、三俣山荘・水晶小屋経営者、
一般社団法人ネオアルプス代表
24歳で継いだ北アルプス黒部源流の山小
屋を切り盛りしながら、今年8月に再開通
した伊藤新道の復活に係る取り組みを行う
と共に、大町市の「山と人と街をつなぐプ
ロジェクト」を指揮。父は「黒部の山賊」
著者・伊藤正一。



パネリスト

木村 宏

NPO 法人信越トレイルクラブ 代表理事

リゾート開発会社勤務などを経て、長野県
飯山市のグリーンツーリズム事業に参画。
2000年の国交省調査事業を契機に信越ト
レイルをはじめ日本のロングトレイル普及
活動に従事し、現在は北海道大学で観光学
高等研究センター教授も務める。



ファシリテーター

三浦 務

一般社団法人コンサベーション・
アライアンス・ジャパン 代表理事
2001年入社ゴールドウイン勤務時代か
らCAJに携わり、自然環境基金の運営や
アウトドア産業界全体の共通課題である気
候危機アクションに取り組む傍ら、数々の
トレイルラン大会もプロデュース。ウルト
ラトレイル・マウントフジ(UTMF)を運営。

参加申し込みは専用フォームから→<https://forms.gle/of8F1gyMGRkE9F2L7>



イベントに関するお問い合わせ先

NPO 法人信越トレイルクラブ事務局

〒389-2601 長野県飯山市照岡 1571-15
office@s-trail.net



**SHINETSU
TRAIL CLUB**
信越トレイルクラブ SINCE2004



トレイル メンテナンス シンポジウム

in 長野県飯山市

セッション

2023年 **11/17(金)** 14:00~19:30

@ 飯山市文化交流館 なちゅら

ワーク

2023年 **11/18(土)** 9:00~16:00

@ なべくら高原・森の家

参加費：無料

※ 1日目の交流・意見交換会にご参加の場合は 4,000円/1名

※ 2日目のお弁当手配ご希望の場合は 1,500円/1名

日本国内には数えきれないほど多くの登山道や自然歩道が存在します。また近年は、歩く旅を楽しむための「ロングトレイル」が各地に整備されるようになり、国内外から訪れる多くの人々に親しまれています。これらの道は、それぞれの地域や団体によって維持管理されていますが、自然環境への負荷、次世代の担い手不足や資金調達、トレイル整備ノウハウや技術者の不足等、様々な課題にも直面しています。コロナ禍を経てアウトドア活動に親しむ人が増加し、自然志向や環境問題に対する意識が高まりつつある昨今、トレイル/登山道利用者がハイキングや山登りを楽しむことに加え、その道の整備活動についても関心を向ける傾向が国内でも見られるようになってきました。そこで、国内外からトレイル(自然歩道)の整備に造詣の深い有識者を招き、整備活動経験者や一般参加者を交え、持続可能なトレイルメンテナンスについて皆で一緒に考えるためのシンポジウムを開催します。



主催：NPO 法人信越トレイルクラブ

後援：環境省信越自然環境事務所、林野庁中部森林管理局、林野庁関東森林管理局、長野県、新潟県、一般社団法人コンサベーション・アライアンス・ジャパン、Leave No Trace Japan、THE NORTH FACE、macpac、KEEN、eno、MiiR、YAMAP、日本トレッキング協会、日本ロングトレイル協会、信濃毎日新聞社、新潟日報社、信越トレイル連絡会



2023年 **11/17(金)** 14:00~19:30
 @ 飯山市文化交流館なちゅら 長野県飯山市大字飯山 1370-1

基調講演
 14:30*1~15:30

100年続くトレイルが未来にもたらしもの
 Sarah Adams × Matt Drury



世界的人気を誇り 100 年以上の歴史を持つ、米国アパラチアトレイル =AT。3500km におよぶロングトレイルをいかに維持管理し、次世代へどう紡ぐのか。AT の統括本部である Appalachian Trail Conservancy(ATC) から、トレイルメンテナンスの現場でご活躍されるお二人を招き、国や企業との連携や沿線地域との関り方等、ATC の活動事例を交えながら対話形式で深掘りしていきます。

活動紹介
 15:30~15:50

信越トレイルクラブの取り組み
 信越トレイルクラブ事務局



自然環境の保全の利用の両立を理念に掲げて、2004 年より活動がスタートした信越トレイル。現在もなお、多くのボランティアの方々によるトレイルメンテナンスが行われています。その 20 年にわたる取り組みについて、信越トレイルクラブ事務局が紹介します。

パネルディスカッション
 16:00~17:30

**今求められる
 トレイルメンテナンスの在り方とは？**
 Matt Drury/ 岡崎 哲三 / 伊藤 圭 / 木村宏 / 三浦 務

持続可能かつ環境負荷のより少ないトレイル整備とは？一般参加者が積極的に関わるトレイル整備とは？各地で活動を牽引するリーダーたちが、それぞれの道の維持管理において抱える課題やその解決策、また今後の展望について、多角的に、赤裸々に議論。日本のトレイルメンテナンスのこれからに光を当てます。

交流・意見交換会
 17:45~19:30*2

Link together

参加費：4,000 円 / 1 名

登壇者・整備関連団体関係者・各自治体関係者・一般参加者が一堂に会し、持続可能なトレイル / 登山道整備について関連な意見交換を行う場として、また国内のトレイル / 登山道整備関連団体同士の交流・ネットワーキングを促進することを目的とした、立食形式の交流会です。

*1 当シンポジウムに先がけ、ATC と信越トレイルクラブの友好締結セレモニーを基調講演の前に行います。
 *2 交流・意見交換会後の宿泊について…なべくら高原・森の家にお泊りをご希望の方は、申し込みフォームのご案内をご確認ください。



2023年 **11/18(土)** 9:00~16:00
 @ なべくら高原・森の家 長野県飯山市照岡 1571-15



**午前の部
 ワークショップ**
 9:00~12:00

トレイル整備にまつわる課題解決の糸口をさぐる

サイエンス&スチュワードシップ副部長のMatt Drury 氏と、大雪山・山守隊代表理事の岡崎哲三氏によるイントロダクション。トレイル/ 登山道の維持・管理の現場で実際に生じた課題とその解決策について、ビフォー・アフター事例を見ながら、お二人から知見をお話しいたできます。講話の後には参加者全員でワークショップを行い、トレイルメンテナンスに関する課題をどのように解決していけば良いか、道筋の立て方を皆で一緒に考えます。

**午後の部
 フィールドワーク**
 13:30~16:00

長距離ハイイクで欠かせない山トイレテクニック
 by LNTJ

お弁当手配ご希望の場合は：1,500 円 / 1 名 (要予約)



ロングトレイルを歩くときに誰もが直面する「山でのトイレ」。自然にできるだけ負荷を与えずに用を足す方法を学びながら、自然環境の保全を考えます。

※このフィールドワークは Leave No Trace Japan 主催の「ホットスポットプログラム」として実施します。



- 飯山駅まで 東京から北陸新幹線で約 100 分 / 金沢から北陸新幹線で約 75 分
 - なちゅらまで ... 飯山駅から徒歩 5 分
 - 森の家まで **公共交通機関利用** 飯山駅からJR飯山線で戸狩野沢温泉駅まで20分→タクシーで約20分*3
- マイカー利用** 上信越道 豊田飯山 IC から国道 117 号経由で約 40 分



*3 なべくら高原・森の家発着の送迎について…ご希望の方は、申し込みフォームのご案内をご確認ください。